

平成21年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500014		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームみどりの家		
所在地	千葉県緑区誉田町2-11-105		
自己評価作成日	2009年10月4日	評価結果市町村受理日	2009年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご利用者が笑顔でゆったりとした生活が送れるように、日々の暮らしを一緒に共感し合いながら携わっています。</p> <p>・ご利用者一人一人を理解し、有する能力を見極め、その能力を活かせる様に支援し、自分らしく、満足した生活が送れるよう勤めています。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	2009年10月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは住宅街にありながら畑に隣接しているという自然の残る環境にある。広いテラスと庭を利用して運動会やバーベキューが催されることもある。調査当日は天気良かったので、庭で入居者が洗濯物を干していた。「笑顔、真心、信頼のある介護」をホーム独自の理念とし、現場の目線を大切にしながら、より良いサービス、支援を試行錯誤しながらも実現しようとしている。日々の出来事も小まめにメモがなされ、職員どうしの連携、共有に繋げている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(1階ユニット) および 外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・笑顔・真心・信頼のある介護 ・日々朝礼で復唱している	職員から募集し、皆で決めたモットーは、毎朝朝礼で復唱しており、日々のケアの中で、職員の拠り所となっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	笑顔で挨拶したり、気軽に立ち寄って下さるよう声掛けしている。	地域の自治会、夏祭り、敬老会などから声がかかり、積極的に参加している。近隣の農家の方からは野菜の差し入れなどがある。事業所からは納涼祭などを地域に案内し、交流は順調である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りやバザーを行った時等にきて頂き、その都度説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月8日(土)に自治会長、民生委員、ご家族代表、協力医療機関の方々が参加されている。	前回は町内会長の地域の話、病院事務長の話など普段聞くことの出来ない話を聞くことができ、大いに参考になった。次回は消防の参加が予定されており、会議の内容が充実してきている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市、区役所とは交流があり、質の向上に努めている。	社会福祉課等には日頃から相談等をしている。市からも定期的な来訪がある。	市町村担当者とは特定の事項だけでなく、ホーム全体の取り組み等について、積極的に伝え、より一層の協力関係をつくることが期待される。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は全職員へ指導しており、取り組んでいる。	気象条件の悪い日を除き、日中は玄関の鍵はかけていない。職員は「言葉の拘束」も含めて身体拘束をしないケアを徹底するようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束、虐待防止に努め改善に向けている。		

グループホームみどりの家 自己評価(1階ユニット) および 評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について知識をもち、活用できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者が決められており、解決に向けて努めている。	家族会では前回問題提起されたテーマについて対応を説明したり、全体の意見交換をしている。家族訪問時は必ず入居者の状況を説明し、家族からの要望を聞くようにしている。何かあったらお互い連絡しあうことを確認している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度管理者が対応している。	月一回、フロア会議が開催され、役員、管理者参加のもとに意見交換を行っている。内容によっては職員の意見を法人の事務局まで上げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合いの機会をもち、働きやすい職場作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながらヘルパー2級を取得したり、研修等で情報交換し学んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉連絡会等の研修会に参加し、同業者の方々と交流し、質の向上に努めている。		

グループホームみどりの家 自己評価(1階ユニット) および 評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日常生活の中で、常時傾聴し、安心の確保に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>気軽に面会できる雰囲気作りとご家族と職員の信頼関係作りに気を配っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要に応じてご家族に連絡し、早期対応を心掛けている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一人一人の能力が活かせるように関わり、その中で共感し合える関係作りをしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族に日常の様子を報告したり、ケアプランにより現状を伝えている。又、ご家族の悩みはその都度責任者が時間を作り対応に努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご利用者が知人や友人に手紙を出すときに手助けをしたり、時には電話を掛け合える機会を作っている。</p>	<p>家族に電話する支援をしたり、行きつけの店に出かけたり、友人の面会もある。バス旅行の時は家族だけでなく、友達にも声をかけ参加してもらった。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者の性格を見極めながら、一人一人が楽しく過ごせるように配慮している。</p>		

グループホームみどりの家 自己評価(1階ユニット) および 評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方には、手紙等で当ホームの近況を伝えたり、ご家族からの相談・支援に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを開催し、職員全員でアセスメントに参加して作成している。	夜勤の時間帯を、一人ひとりの話をゆっくり聞く時間が取れる良い機会と捉えて、思いを聞き取るようにしている。情報は申送りで全職員に伝えている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族等から話を伺い、基本情報としてアセスメントシートを作成している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に気が付ける職員であるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族の意見を基本に、全職員でアイデアを出し、介護計画を作成している。	職員は、カウンターに置いてある「気が付いた事」ノートに自由に書き込んでいる。ケア計画はそこに書かれた内容や、フロア会議で出された意見を参考にして作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しに活かせるように、介護記録、健康管理票等の記録は個別に細かく記載している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化にすばやく対応し、介護計画の変更に取り組んでいる。		

グループホームみどりの家 自己評価(1階ユニット) および 評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族、地域の方々と交流を図り暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密な連絡を取り、いつでも相談・医療が受けられるようになっている。	ホームの提携病院からの往診のほか、かかりつけ医への受診も支援している。家族の付き添いが難しい場合は、職員が送迎している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に気付いたら、職場内の看護職員や訪問看護師に相談し、適切な治療を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症。体の機能が衰退しないよう頻繁にお見舞いに行き、ご利用者に安心していただくと共に、病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に見極めを行い、ご本人の意思を尊重して、チーム(ご家族・職員)としての支援をしている。	法人全体でターミナルケアを視野に入れた体制づくりに取り組んでいるので、一人ひとりについて、きめ細かく支援していくことが期待される。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練、管理者への報告の徹底を常に指導している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の研修を受けた職員が指導している。	年1回の火災訓練を実施している。また、食料と水も備蓄している。地域の協力については自治会長に話をしている。	特に夜間の災害に対する備えを万全にすることが望まれる。地域の協力は不可欠なので、連携を深め、訓練の回数を増やしていくと良いと思われる。

グループホームみどりの家 自己評価(1階ユニット) および 評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、言葉掛けや対応には十分配慮している。	プライバシーに関してはマニュアルを整備し、研修も実施している。職員の対応にも配慮が見られた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に傾聴し、その人らしい支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じた支援を心がけ、その人らしい一日を過ごせるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を可能な限り支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご利用者と職員と一緒に食事作りや後片付けを行っている。 ・畑で収穫された野菜を食卓にあげている。	食材は宅配業者から入れているが、畑で収穫した野菜を取り入れたりして工夫し、同じ食材でもユニットで違うメニューになることもある。入居者と職員は下ごしらえや配膳、後片付けを一緒に行い、同じテーブルで食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな飲み物を提供したり寒天ゼリーにして脱水予防に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内衛生の習慣ができるように日々声掛けをしている。義歯の清潔も毎食後職員が見守り行っている。		

グループホームみどりの家 自己評価(1階ユニット) および 評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのタイミングを把握し、トイレ誘導及び声掛けで促し支援している。失敗がある時はさりげなく交換し、羞恥心に配慮している。	排泄はチェック表で一人ひとりのパターンを把握し、声かけをするようにしており、できるだけ自立できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、水分を十分に摂取してもらい、スムーズな排泄が望めるようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は一応決められているが、希望があれば合わせた対応は可能である。	週3回が基本だが、希望に応じて対応するように努めている。入浴拒否の人に対しては、タイミングを見て再度声かけをしたり、職員を変える等して工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	下肢に腫瘍がある人が、日中に座敷で両足を上げられるように畳コーナーを作っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬箱に薬の内容を提示したり、一覧表として表にして全職員が確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を参考に、楽しく過ごしていただけるように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の買物と一緒に行っていただいたり、つきに一回少し遠出し、気分転換が図れるように支援している。	ゴミ拾いをしながら散歩に出たり、買物と一緒に行ったたりしている。また、月に一回は車で九十九里やぶどう園に外出している。	一人ひとりのその日の希望にそって出かけるというのは、なかなか難しい状況である。職員は、入居者の希望を叶えたいという思いが強いので、大変ではあるが、少しずつ実現していくことが期待される。

グループホームみどりの家 自己評価(1階ユニット) および 評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により、手持ち金がほしいと訴えがあった場合に、ご家族からの預かり金を渡している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば職員が対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合った作品をご利用者と職員が考え作品作りをし、リビング・廊下・玄関前等に飾っている。	各ユニットで工夫して季節感のある飾り付けをしている。リビングの一角に畳部分があり、そこがお気に入りの入居者もいる。不快な匂いや音も無く、居心地のよさが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士気のあった方々がリビング等で昔話をしたり、デッキでも外気浴等楽しめるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が生活に慣れた家具を持ち込み、居室に置かれ、居心地よく過ごせるように努めている。危険防止の為腰下位の物をお願いしている。	愛用している鏡台、大切な人の位牌、写真等、入居者の好みの物を置いた居室は、一人ひとりの個性が感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや浴室、トイレがバリアフリーになっており、自立した生活が営めるように工夫している。		